



創立149周年

年度末号（令和5年3月16日発行）

kurosyou-dayori

鉄小だより

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kurogane/> 横浜市立鉄小学校

巣立ちの春

校長 玉置 恭美

校庭の桜の花が、一つ、また一つと咲き始めました。ハクモクレンが大きな花を開き、紫陽花の固い枝からは、小さな緑の葉が芽を出しています。

明日、17日は令和4年度の卒業証書授与式です。卒業生たちは、小学校の課程を終え、6年間慣れ親しんだ鉄小学校の学び舎から、より広い「中学校」という社会へ飛び立っていきます。

ランドセルが歩いているようだった6年前、たくさんの在校生に迎えられ、入学した日から、卒業までの日々は振り返ってみるとあっという間だったと思います。入学して間もないころは、保護者と別れるのが辛くて、校門の近くで泣いていた子もいたでしょう。でも、たてわり活動を中心として、楽しい学校生活で、多くの先輩方に囲まれて、あっという間に鉄小学校の一員として、活躍する日々がやってきました。月日を重ねるほど、自分でできることが増えていきました。しかし、3年生の最後になって、学校が休校となり、4月になってもしばらくは、クラス全体での授業ができない新学期が始まりました。その後の3年間は、ずっとマスク姿の友だちと、制限がある中で、やれることを一杯やってきた6年生たち。4年生、5年生で、宿泊体験学習に行くことができず、6年生の修学旅行での、初めてみんなで寝泊まりした体験は思い出深いものとなりました。総合的な学習として、仲間と共に経験してきた鉄小ならではの農作業では、6年目の田植え、稲刈りで、見事な行動力を見せてくれました。全校児童による、『Song is my soul』。曲の中に「もう一度君と歌いたい」という歌詞があります。卒業式予行練習で、4年ぶりに全校で歌いました。6年生の心に残ったことでしょう。

卒業してゆく6年生たちが、それぞれの良さを生かして、自分の道を歩んでいきます。保護者、地域の皆様、鉄の未来を担う卒業生、そして在校生たちをこれからもよろしく願いいたします。

